

令和7年度 第80回 記念 福岡県美術展覧会〈会員の部〉



彫刻
「巻」
松永慎一郎
第80回記念賞



材料が曲げられるならそうしたが、今回も丸太を削った作業は、彫刻というよりむしろ工事のようであった。悩みながらも経過と共に退くにも退けずが顛末。しかしながら結果オーライ。なんでもやってみるもんやね。



日本画
森田 秀樹
「向日葵(四)」
福岡県美術協会賞

向日葵は、この作品で四作目となります。二種類の和紙を重ねて下地を作り、その上に向日葵のかたちを転写し、自家製の松煙墨で線描しました。なお、線を活かすため、色数は少なく、彫塗りで表現しました。

洋画
赤星 勝
「帰路に就く(尾道)」
福岡県美術協会賞

今年は珍しく体調が安定した為、早い制作開始となり狙ったリアリティと、ストーリーを感じる具象が少しは表現出来たと思います。路地の美しさを感じる人の融合も不充分乍ら気に入りました。引退も少し先延ばしかな？



写真
神田 洋子
「シャドウ」
福岡県美術協会賞

この度は、素晴らしい賞を頂き感謝しております。この作品は、広島安佐動物園で撮影したものです。白い壁に映った動物の影が珍しいと思い、キリンとダチョウが近づくの待ってシャッターを切りました。



デザイン
中村 美香
「ワレモノ、あなたも私も」
福岡県美術協会賞

このたびは栄えある賞を賜り、心より御礼申し上げます。人の心はガラスのように繊細で壊れやすいもの。互いの心の機微に丁寧に向き合えば生きやすい世界がそこにあるーその願いをミシンで表現しました。



書 今津 瑠美子

「万葉のうたを」

第80回記念賞

県展80年という記念の年に記念の賞を頂き、心から感謝しております。書とはなど自問しながらの作品作り。万葉人の秋を待つ思いに自分を重ねて、墨は淡墨、紙は涼しげな色。自分のリズムを大切にし一気に書きました。



洋画 原田 純子

「白い花も夢をみる。」

第80回記念賞

初夏から咲き始めたカラーは、緑の葉に囲まれて、まっすぐな茎を伸ばし、シンプルな形の白い花です。最近の気象の変化は湿地に育つ花にとって、過酷な事かもしれません。この花を青空の中に描きたいと思いました。



彫刻 宮脇 俊幸

「二枝の花(平和への願)」

富永朝堂賞

過去に学ばない戦争と犠牲。抑圧の中でも消えない希望を花に託し、自由を求めている人々を鳥の姿で表現。今起きている罪のない人々への理不尽さと争いの愚かさ、私なりのメッセージを込めた作品です。



工芸 太田 富隆

「藁刷毛掛分鉢」

第80回記念賞

このたび第80回県展会員の部80回記念賞を賜り、心より感謝申し上げます。刷毛目と柔らかな色のグラデーションを工夫し、美しさの中に宿る強さも感じていただければ幸いです。



写真 中妻 貴美子

「祈る」

第80回記念賞

この度は思いがけない第80回県展記念の賞を頂きびっくりしております。ありがとうございます。冬の朝の浦に暖かい朝日がふりそそぎ長い時間熱心に祈っている姿に心打たれ写した一枚です。

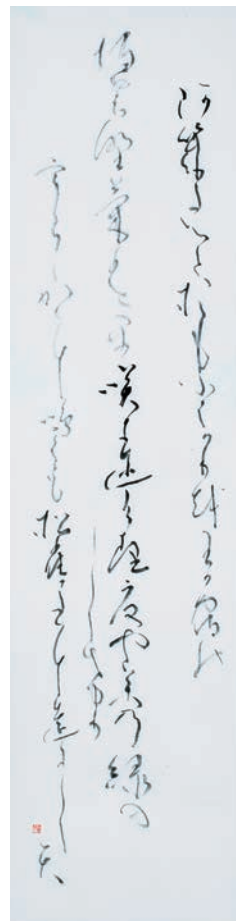
書 鈴木 久美子

「あき」

福岡県美術協会賞

身に余る賞を頂き有難うございました。毎年制作には時間をかけ、仮名の持つ優雅さやわらかさを重点におきながら、墨量・余白を考え書き上げました。

ご審査いただきました先生方には感謝申し上げます。





洋画 松村 栄二
「桜貝」
青木寿賞

野外ステージや噴水、木々が思い出と共に消えた。街中に響いたシュプレヒコールは新しいビルのガラスには浸み込んではいない。桜貝、あの海にそれはある。変わらないものを見ていたのかも知れない。



日本画 横山 佳美
「路傍より」
第80回記念賞

折っても抜いても何度も生えてくる植物の地の底から湧き上がってくるようなエネルギーを表現しようと、明暗の調子を意識して描きました。より深く、高く、大きくあるうとする植物の姿を範として今後も精進致します。



工芸 富永 久仁代
「白絵紺(万華鏡の響き)」
豊田勝秋賞

この度は受賞させていただき感謝しております。白紵着物なので絵紵逆括り技法です。オフホワイトに染めた地に紺紋大小、墨染濃淡で動く万華鏡の響き、小さな首里花織も動く光が出るようにと織り上げました。

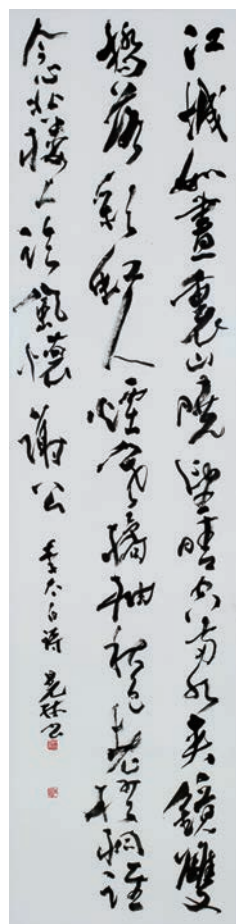


彫刻 湯之原 淳
「ボクたちは此処にいます」
安永良徳賞

招き猫、こけし、達磨…、人々の願いを込める対象として、永く受継がれてきた揺るぎない形。そこにある平和な空気感。一つひとつの平和が、いつまでも続いて欲しいという想いを「かたち」にしました。

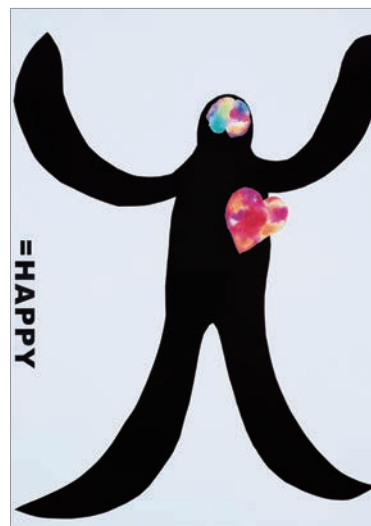
書 熊谷 晃林
「李太白詩」
岩田屋三越賞

この度は賞を頂き有難うございました。書はリズムであり、線が命と学び、わざとらしさを出さぬよう、自然に筆に従って書きました。又、足腰の強さは書家の一つの条件、健康な作品を発表出来るよう日々歩き続けます。



デザイン 有松 稔晃
「WORK`25」
第80回記念賞

この度は「第80回記念賞」を賜り、大変光栄に存じます。デザイン部のテーマは「It x Design」。生きるための食事は、五感に訴えかけるDesignと分かち難いもの。日々の暮らしの中にあふれるDesignを段ボールをベースに表現しました。



デザイン 田中 喜久子

「HAPPY」

岩田屋三越賞

この度は、岩田屋三越賞を頂きありがとうございます。デザイン部、今年のテーマは「人×デザイン」。
デザインは考え、感じて人をHAPPYにする事が出来ると思います。

彫刻 三好 道雄

「時と地」

豊福知徳賞

今回、賞を頂きありがとうございます。今後の励みになります。生きている限り何らかの「不安」を抱いている気がするのです。そこで、日常の中で感じていること、「不安」を制作テーマとしました。



書 中園 良子

「万葉の歌」

山本文房堂賞

この度は素晴らしい賞に選んで頂き有難うございました。万葉仮名に憧れ表現したく、万葉仮名だけの作品を、墨色の変化も求め、淡墨にも挑戦しました。これからも大好きな書道をもっと楽しみ、学び続けたいと思います。

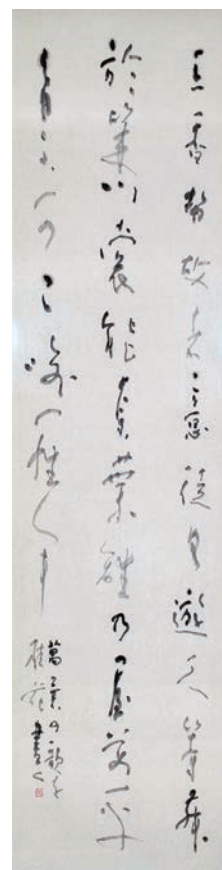
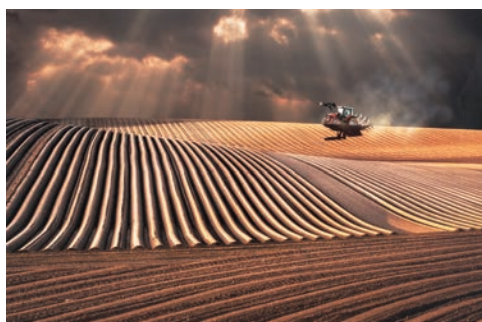


写真 神田 昭司

「夕照の丘」

岩田屋三越賞

この度は、予想だになかった夫婦同時受賞という嬉しいお知らせを頂きありがとうございます。この作品は、北海道美瑛で、畑が夕陽に一瞬輝いた時、その美しさに感動して撮影したものです。



洋画 小川 幸男

「one-man show」

山本文房堂賞

街角で見掛けた一人のミュージシャンは、ハーモニカとギターで歌い、バスドラムとハイハットを背負って、楽しそうに全身を使って演奏していました。その時の情景が目に残り、記憶を頼りに作品にしてみました。



工芸 梅林 保乃

「藍型染帯(グラジオラス)」

岩田屋三越賞

この度は「岩田屋三越賞」を頂き誠にありがとうございます。着物を纏った後姿の帯のお太鼓の柄が美しく見える様に背が高いグラジオラスの花「輪」輪と勢いある葉をデザイン化し連続模様の型紙で藍染しました。



日本画 安藤 久

「天孫降臨」

山本文房堂賞

日本神話「天孫降臨」の地とされる高千穂峰の霧島神宮です。木漏れ日の参道から浮かび上がる本殿には心が洗われます。この感動が伝えられたらと思います。素晴らしい賞を頂きましてありがとうございます。





第80回 福岡県美術展覧会 記念講演会

● 福岡県立美術館4階視聴覚室

美術展と知的財産権

日時／2025年9月15日（祝・月）15:00～17:00
講師／弁護士・弁理士 竹永 光太郎

創作した（された）作品は財産であり、法律により保護されています。この法律（知的財産法）の理解を深めるための講演会を開催し、本会が福岡県展の出品者にとって「権利を侵害しない自由な創作活動の一助」となるような内容に努めました。講演は二部構成とし、前半は、知的財産法に精通されている弁護士・弁理士の竹永光太郎先生による「著作権法」など知的財産の種類や権利について解説、後半は、ディスカッション形式で、「インターネット上に配信された画像を利用し創作する場合の注意点」や「写真撮影時の注意点」など、各部門へ事前アンケートを行った内容も盛り込みながら、作品の創作時に「起こりそうな事」についての見解、また、実際に紛争となった作品も会場に映し出ししながら、どのような作品が、どのような理由で著作権者から訴えられたのか？をわかりやすく解説する内容としました。質疑応答の時間では、参加いただいた方の質問にも竹永先生の専門的な見解を示していただくなど、短時間ながらも有意義な会を開催することが出来たと感じます。今後も知的財産についての理解を深められる場が「福岡県展」にあることを期待し、福岡県の文化芸術活動の発展に寄与できる美術協会活動に努めたいと思います。

公益社団法人福岡県美術協会
理事・デザイン部会委員 阿比留 潔

作品に押す印のつくり方を学ぶ

日時／2025年9月21日（日）15:00～17:00
講師／福岡県美術協会理事・書部会委員長 矢野 菜山

印は書部門のみならず日本画・洋画・工芸など多くの部門で使用し興味関心が高い、ということで講演会を開くこととなり、その期待通り、多くの部門からの参加者で会場は満席となった。

講演は「篆刻は篆書を刻むというのが本来の姿であり、それに適した石印材が発見された中国の元時代に始まった」との説明から始まり、更に、中国の篆刻家が日本の芸術家に影響を与えたこと、朱文印・白文印について、印式の決まりへと続いた。

〈用具用材〉では、印材・印泥・印刀などの現物を矢野先生が持参され、わかりやすく解説された。特に印材の種類、印泥の扱い方、押印での注意点などは興味深い内容だった。〈印稿の捉え方〉では、篆刻は「方寸の世界」であり、如何に大きく広い世界を作り出していくかが重要であることを示された。〈布字の方法〉では、本来の方法と簡易な方法とを紹介され、〈印を刻す刀法〉では、実際の刻印の状況をスクリーンに拡大し、分かり易く学ぶことができた。〈運刀〉では、はじくような「音」が大切という言葉が印象深かった。

制作状況説明のため、実際使用する印（名前の一文字）を美術協会7部の各部から1名ずつに刻していただく（プレゼント）こととなった。布字をせず直接の印刻をスクリーンで鑑賞することができ、矢野先生の技術の高さを示していた。設定された時間を大きくオーバーしたが、参加者にとっては内容の充実した興味深い講演だった。

公益社団法人福岡県美術協会
副理事長（書） 鐘ヶ江 勢二

第80回 福岡県美術展覧会を振り返って

公益社団法人福岡県美術協会理事長 宇田川 宣人

令和7年度県展は福岡県立美術館において9月2日から28日まで、1期（彫刻・写真）、2期（日本画・工芸・デザイン）、3期（洋画）、4期（書）に分けて展示しました。その後、巡回展として10月に筑後展（大牟田文化会館）、また、11月に筑豊展（嘉麻市立織田廣喜美術館）と北九州展（北九州市立美術館）を開催しました。

今年度も当協会は福岡県立美術館と西日本新聞社と共催し、親身なるご指導とご鞭撻を賜り、盛況のうちに終了することが出来ました。また、会員と賛助会員、協賛者等の皆様のご支援、ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。さて、今回の「会員の部」展示は80回記念の節目を意識して、力作を発表した会員も多く、見ごたえのある充実した現代美術展になったと考えます。

750名の会員の中から570名に出品頂きましたが、約25%が不出品でした。会員の超高齢化など様々な事情によるものと推察されますので、温かく見守り、次回からの再挑戦を期待したいと思います。

公募展においては全7部門で、1946人から2301点の応募をいただき、1248人、1299点が入選し、入選率は例年通り、約56%の厳選になりました。現代の最先端の美術は多極化し拡張し続けていますが、県展は県民本位の美術展ですので、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・デザインの県民に親しまれてきましたオーソドックスな7部門です。今回もその美の創造の目標に向かって、様々な新鮮な作品を応募して頂きました。138人が受賞となりましたが、造形性や感性、コンセプト、メッセージ性などの観点から、ハイレベルな公募展になったと考えます。会期中の事業としては、入選・入賞作品を審査員が講評する「合評会」、また、小・中学校・特別支援学校生を対象としたスクール・ミュージアム事業、更に第80回展記念講演会として、「美術展と知的財産権」と「作品に押す印のつくり方を学ぶ」を開催し、いずれの事業も好評を博することが出来ました。

また、課題として浮き彫りになりましたのは、ここ数年減少傾向にある公募展出品者数増加対策です。今年度の応募者の年代は70歳代が最多、約600人でした。次に60歳代、80歳代、その次が10代と続いています。今後は、20歳代から50歳代までの働き盛り世代への出品働きかけの取り組みを強化したいと考えます。更に、入場者も7419人で、昨年より110人減少しています。微減の状況ですが、部門により極端な増減がみられ、検証の上、総合的な対策を取り、更なる入場者増に繋げたいと考えます。また、駐車場の管理方法の変更に伴い、県立美術館への作品搬出入等において、役員・会員・出品者の皆様に変なご不便とご迷惑をおかけしました。共催の担当者と引き続き協議を重ね、より良い対策を検討してまいります。

また、県展の入選率の拡大や会員の部の作品サイズ拡大などの継続的な課題は、令和11年度の新美術館移転による解消を期待していますが、当協会としては財政健全化や会員の福利厚生面など、基本的な課題にも目を向けながら、来年度、第81回県展開催に全力を注力して行きたいと考えます。皆様のご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。

第80回 福岡県美術展覧会〈巡回展〉

第80回記念 福岡県美術展覧会 巡回展は、多くの皆様にご来場いただき、盛況のうちに終了いたしました。巡回展では、各部門の入賞作品及び当該地区から出品された各部門の入選作品（会員作品を含む）が展示されました。また、会員による合評会も行われました。

■ 筑後展 <大牟田文化会館>
10月19日～25日/日本画・洋画・書・写真

■ 筑豊展 <嘉麻市立織田廣喜美術館>
10月29日～11月2日/洋画
11月5日～9日/日本画・写真・デザイン
11月12日～16日/書

■ 北九州展 <北九州市立美術館>
11月20日～24日/日本画・洋画・彫刻
工芸・書・写真・デザイン



第80回県展 筑豊展合評会



第80回県展 北九州展合評会

2025 ふくおか県 障がい児者 美術展

ふくおか県 芸術文化祭 2025 「絵画・書道・写真」

昨年同様福岡県美術協会より、審査及びギャラリートークのため（絵画）瀧井 利子 洋画部会員（書道）矢野 菜山 書部会員（写真）西村美代子 写真部会員を推薦致しました。



表彰式とイベント

令和7年12月20日【土】

九州国立博物館（太宰府市）050-5542-8600

●審査員と受賞者によるギャラリートーク
14:10～14:40

展覧会

※既に三会場は終了

●令和7年12月16日【火】～12月21日【日】
嘉麻市立織田廣喜美術館（0948-62-5173）

●令和8年1月6日【火】～1月12日【月・祝】
福岡県立美術館（092-715-3551）

— ふくおか県芸術文化祭 2025 —

2025 福岡県シニア美術展 「県知事賞作品県庁ロビー展」

全7部門の最優秀賞（福岡県知事賞）が一堂に展示されます。県庁にお立ち寄りの際はご高覧ください。

■令和7年12月15日（月）12時から
12月26日（金）12時まで

■県庁ロビー（南東壁面エリア）

※通常は8時半から
17時15分まで
※20日（土）・21日（日）
は開庁日



福岡県立美術館 「スクール・ミュージアム事業 （アートコース）」解説を担当して

福岡県美術協会監事 筒井 知徳

本事業の解説を担当して3回目となりますが、来館される様々な年齢の児童、生徒に部門別の作品解説は難しくもあり、また大変楽しい時間でもあります。美術展という一括りの作品展示で、部門によって異なる表現方法、素材、各作者の表現意図を皆さんが理解できる言葉を選び考え、解説を進めなくてはなりません。

必要な画像や映像が簡単に目前に再現される現代、実際に展示された「実物作品との違いは何か」を示すのが、解説者の役目であると思います。解説後の質疑内容で、自分の解説が「当を得た内容」であったと確信する事もあり、「言葉の選び方を間違えたか?」と自問自答する事もあります。鑑賞後に熱心にレポートを記述する姿を拝見して、学校現場の指導が十分に行われているなと感心します。今後も本事業への会員各位のご協力を願っています。

2025 福岡県シニア美術展を終えて

シニア美術展実行委員会 副委員長 城戸 久美子

本年度第25回を迎えたシニア展は、例年10月開催が会場の都合により7月となり、猛暑日続きの開催となりました。また、駐車場は市営有料駐車場となり、更に搬入搬出専用駐車場が無い困難な状況下での初めての取り組みとなりました。このような厳しい状況の下では応募者減が予想され、その財源不足の対応として郵送費削減のため、まず応募要項の大きさの縮小をデザイン部佐土嶋理事に担当して頂きました。また、シニア展の周知のため宇田川理事長をはじめ各先生方に募集要項配布にご協力いただきました。参加賞アートウォール（全作品掲載ポスター）は、例年の後日発送を見直し写真部小林実行委員を中心に最速で完成させていただき各自持ち帰りを実施しました。

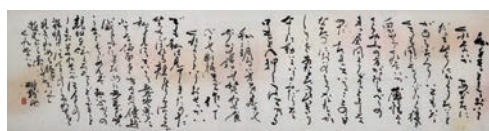
更に今回懸念重要課題である搬入の駐車場問題は、募集の段階から出品者への事前周知及び近隣駐車場の案内をしました。また、全ての作品搬入の場所を1階とし、また個人搬入時間を把握し、懸命に駐車場滞留時間の短縮の対応をしました。最大のご尽力は猛暑の中、連日駐車場の対応を担当して下さいましたシニア展実行委員長山本理事他多くの会員各位のご協力です。熱中症対策を懸命に行い、他総力あがての対応で、何とか円滑に進めることで安堵しました。

視聴覚室での賞状伝達式では受賞者の喜びに触れ、合評会では多くの参加者の真剣な目差しがありました。真摯に取り組まれた作品にシニアの皆様の美術を通しての生きがいとふれあいを改めて再確認いたしました。また、会員の皆様のご尽力により、お陰様で昨年とほぼ変わらない応募があり、また滞りなく充実したシニア展となり、困難な状況の中盛会の内に終わることが出来た事、心より感謝と御礼を申し上げます。

「ねんりんピック岐阜2025」美術展で 3名の受賞者が出ました。



最高齢者賞
（彫刻）泉谷 建一



厚生労働大臣賞（書）松浦 まゆみ



岐阜県知事賞
（工芸）糸永 初美

第37回全国健康福祉祭ぎふ大会「ねんりんピック岐阜2025美術展」が、岐阜県美術館・岐阜県図書館にて10月18日（土）～21日（火）に開催されました。「2024 福岡県シニア美術展」の代表作品12点を福岡県の代表作品として出品。彫刻部門と工芸部門と書部門において、3名の方が入賞の栄誉に輝かれました。

60周年、そして40周年

今年8月開催のコレクション展示「フワクのミワク」それは、新型コロナウイルス感染症の流行の中、会期中で閉幕した「1964・福岡県文化会館・誕生展の振り返りともいえるものでした。福岡県文化会館からの60年、そして福岡県立美術館の40年の歴史と役割を改めて考えさせられるものでもあった。全国的な文化振興の高まりと前衛美術の台頭の中で、県文化会館は1964年に開館し、70年代の前衛の余韻の中、80年代のインディペンデンス、多様化の時代を迎える。1985年に県立美術館となり、現代美術への理解や認識を深め、地域に根ざした芸術を底支えする役割を担い続けている。また現在開催されている「没後50年 高島野十郎展」のように、この地に縁ある作家の作品紹介や企画展示も数多い。来期には、知る人ぞ知る画材店、山本文房堂の的野さんのコレクションや画家野見山曉治との交流から生まれた「サムホール公募展」を取り上げる展示も企画されていると聞く。

（広報委員長 津田三朗）

筑前小石原焼

まるた窯
窯元

た 太田剛速

Taketoshi Oota

（工芸部会委員長 理事）



朝倉郡東峰村小石原711

TEL: 0946-74-2220

<https://ootagama.com>

〈賛助会員のご紹介〉

多くの企業のご支援をいただいています。

- | | |
|------------------------|--------------|
| ■ 九州電力(株) | ■ 太宰府天満宮 |
| ■ (株)福岡銀行 | ■ タマホーム(株) |
| ■ 西部ガスホールディングス(株) | ■ (株)テレビ西日本 |
| ■ 西日本鉄道(株) | ■ 東美 福岡店 |
| ■ (株)西日本シティ銀行 | ■ 長門博之法律事務所 |
| ■ (株)クラフティア (旧 (株)九電工) | ■ 学校法人中村学園 |
| ■ 九州旅客鉄道(株) | ■ 学校法人中村産業学園 |
| | (九州産業大学) |
| ■ 朝日自動車(株) | ■ (株)中村美術室 |
| ■ (株)味の兵四郎 | ■ 日本デザイナー学院 |
| ■ ASOポップカルチャー
専門学校 | ■ (株)博運社 |
| ■ 有澤ホールディングス(株) | ■ 筈崎宮 |
| ■ (株)岩田屋三越 | ■ 晩香堂 |
| ■ (株)ヴォイス | ■ 福岡芸生美術会 |
| ■ (株)エターナルラボ | ■ (株)平助筆復古堂 |
| ■ 大松隆税理士事務所 | ■ 墨扇堂 |
| ■ 北九州書道協会 | ■ (株)みぞえ画廊 |
| ■ (株)喜多屋 | ■ ミナミ画材 |
| ■ ギャラリーSEL | ■ 南谷総合法律事務所 |
| ■ 櫛田神社 | ■ (株)山本文房堂 |
| ■ (株)久原本家グループ | ■ 文房四宝 和美創 |
| ■ 健康住宅(株) | |
| ■ 社会福祉法人 さわやか会 | |
| ■ (株)サンビルテックシステム | |
| ■ (株)上海堂 | |
| ■ 祥文社印刷(株) | |
| ■ (株)新出光 | |
| ■ (株)杉田写真館 | |
| ■ (株)ゼンリン | |

<50音順>

美県
けんび
ウォッチング

福岡県立美術館

みんなの画材

山本文房堂の的野さんは、
野見山眺治さんと
ともにこの街を励まし続けた

令和8年
1月20日(火)〜3月8日(日)
月曜休館(ただし、祝休日
はその翌平日)
※会期中一部展示替え有り
会場
福岡県立美術館4階展示室



撮影 木原千裕、提供 忘羊社

長年、山本文房堂の的野恭一(1930-2022)は、額縁画材店を営みながら、人々が自然な形で美術に親しめるような枠組み作り、に数多く取り組んでいました。今回の展覧会では、フレーマー(額装師)・的野に着眼しながら、画家・野見山眺治との親交によって生まれたふたつの取組みについて紹介します。一つは、1973年からの37年間で、自店画廊で開催した東京藝術大学版画研究室による版画グループ「アトリエC-126」の版画展です。もう一つは、1989年からの27年間、野見山とともに一人三脚で取り組んだサムホール公募展です。本展では、的野の取組みに着目しながら、野見山作品、アトリエC-126にはじまった的野の版画コレクション、サムホール公募展の作品・資料によって、的野と野見山の関係、そしてふたりのこの街の美術に対する想いをご紹介します。(学芸員/岡部るい)

令和7年度 地域文化功労者 文部科学大臣表彰

【芸術文化】宇田川 宣人 理事長(洋画部)



この度の身に余る光栄に感謝しています。私は「地域と芸術文化」という言葉を聞くと、遠い昔の学生時代が蘇ります。郷里を愛し、神戸から通って芸大教授を全うした恩師、小磯良平先生から「画家は都会で頑張った方がいい」と言われ、とっさに「先生は何故?」と、感じてしまった後悔です。また、高齢の奥村土牛画伯が世田谷区美術展の展示作業に精を出している姿にも感銘を受けました。しかし、その後、私は「都会や田舎、中央と地方」など、地域について特に意識して過ごしてきた訳ではありませんが、故郷の美術展発足に協力し、福岡市に住んでからも東区美術協会、立玄展、ルパ会、福岡市美術連盟、福岡県美術協会、福岡文化連盟、福岡県文化団体連合会、九州文化協会、九州沖縄文化団体協議会、アジア美術家連盟などの地域の住民文化の文化芸術活動の仲間入りし、刺激を頂きながら画家生活を楽しんできました。

今では、多様な価値がぶつかり合い新しい文化が生まれる都会が、芸術家にとって如何に重要な場であるかを身に染みて肌で直に感じています。私の感性を鍛えてくれたこの福岡県の明るく豊かな風土に感謝し、また、これまでご指導ご鞭撻を賜りました多くの先生方、諸先輩、友人、文化芸術関係各位の皆様のご厚情に謹んで心より深謝申し上げます。

部会だより

■工芸部 | 工芸部会委員長 太田 剛速

第80回福岡県美術協会工芸部会研究会・懇親会を8月7日ビエトロ本店セントラールにて開催しました。会員外審査員猪熊兼樹先生(東京国立博物館工芸室長)、今泉今右衛門先生(重要無形文化財保持者・人間国宝)を招き研究会を開催。猪熊先生の研究されている

砧蒔絵硯箱の意匠にみる「あはれ」をテーマに「万葉集、古今和歌集、伊勢物語、源氏物語」といにしへの時代で蒔絵の表現方法の違い、「あはれ」自然に感動する気持ちの大切さをご講話いただき、その後は楽しく美味しい食事をしながら懇親を深めた会となりました。

■書部 | 書部会委員長 矢野 菜山

去る9月28日(日)16時より、福岡リーセントホテルにおいて、「第80回記念福岡県美術展入賞・入選者、福岡県美術協会書部会正会員合同祝賀懇親会・記念講演会」が開催されました。当日は207名にも及ぶ参加を得、親睦と研鑽を深める場となりました。

とりわけ、九州国立博物館館長の富田淳先生を講師としてお招きし、

「王羲之から欧陽詢へ」の演題のもと、これからの書作品制作にかかわる根本的なテーマが語られ、貴重な時間を共有する機会が得られました。書の歴史上神格化されてきた王羲之という存在を、革新的な書の先駆者として捉えなおし、その生きざまや活動が現代の我々に如何に影響を与えているのかをご教授頂き、とても有意義な一時を過ごすことができました。

遺言・相続・成年後見が専門です

開催日程は変更となる
場合があります



無料
相談会
のご案内

行政書士 村里法務事務所

福岡市城南区茶山1丁目9番45-508号 TEL&FAX092-842-8869

遺産・相続・成年後見を専門とする「行政士八年会」に所属し総勢26名のメンバーと交代で
毎月無料の「心配ごと相談会」を開催しています。

- 福岡県立複合施設「クローバープラザ」(JR春日駅下車徒歩1分) ▶▶ 毎月第二土曜 午後1時~4時
□社会福祉法人「春日市社会福祉協議会4階」 ▶▶▶ 毎月第一・第二・第三・第五水曜 午後1時~4時

随時ご予約うけたまわっております。お気軽にお電話ください(^^) /

Phone 090-5389-1553



fas gallery

展覧会・出版のご案内

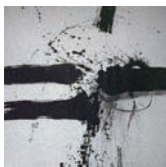
●展覧会の予定については諸事情により変更となる場合があります。開催の有無をご確認の上、お出かけください。

アート・オブ・白き陶 特別展 「やきものも、抽象も。」

■令和7年11月1日(土)～12月14日(日)
■唐津市近代図書館 美術ホール

唐津市近代図書館の特別展アート・オブ・白き陶は陶芸家と抽象画家の作品を展示。
(酒井 忠臣)

「黒の空間 08-2」酒井 忠臣



第27回 謙慎書道会九州沖縄展

■令和7年12月23日(火)～12月27日(土)
■福岡市美術館 ギャラリーA・B・C・D

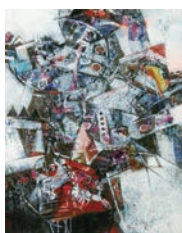
謙慎書道会評議員以上による展覧会。正会員 16 名出品。賛助出品に新井光風先生、高木聖雨先生。
(古木 青翰)



第109回 二科展 巡回福岡展

■令和8年1月27日(火)～2月1日(日)
■福岡市美術館

全国巡回作品+地元作品(県美術協会会員を多く含む) 絵画・彫刻・デザイン・写真の4部門約 300 点を展示します。
(田浦 哲也)



「残響」小川 幸男

「色彩の沃野4人展」 Part2

■2月9日(月)～2月15日(日)
■ギャラリー風

概念や文学的物語性に抛らず、色彩の潜在力のみによって絵画の可能性を探索するギャラリー風の企画展です。
(松永 瑠美)



「melt」松永 瑠美

九州女子大学 第58回卒業書作展

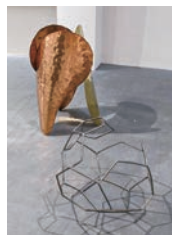
■2月10日(火)～2月15日(日)
■九州国立博物館 エントランスホール

九州圏内私立大学で唯一、書道のコースを有する大学の卒業書作展。
古木青翰、吉田成美両氏、賛助出展。
(古木 青翰)

小田部 黄太 退任記念展 「そこに在るということ」

■2月10日(火)～23日(月・祝)
■九州産業大学美術館

今年度末での大学の退任にともない、大学の美術館で、退任記念展「そこに在るということ」を開催いたします。ご高覧賜れば幸甚です。
(小田部 黄太)



「関係性について'25No.7」

「不失正鵠」 日本画グループ6人展

■2月10日(火)～2月22日(日)
■ギャラリーCreate洛

6名の日本画家が、それぞれ独自の実験的な作品を発表します。今回で7回目となります。
(森田 秀樹)



「向日葵(四)」森田 秀樹

第92回 独立展

■2月25日(水)～3月1日(日)
■福岡市美術館 ギャラリー全室

国立新美術館で開催された第92回独立展の内から会員、受賞作、地元作家の約92点の作品を展示。
(中原 未央)

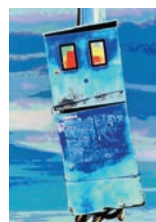


「Flow-T」中原 未央

「PAD」園こうじろう photo art design exhibition

■3月10日(火)～3月15日(日)
■田川市美術館 ギャラリーB

フィルム写真から出発した新たな表現世界を模索する展示会です。
(園こうじろう)

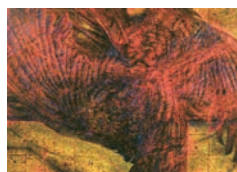


「PAD」園こうじろう

第78回 二紀展 福岡巡回展

■3月10日(火)～3月15日(日)
■福岡市美術館

本展は国立新美術館で開催された二紀展より入賞等の主な作品(絵画 74 点、彫刻 10 点。地元作家含む)を展示。
(大橋 圭介)



「夜に翼を放つ」大橋 圭介

第32回 筑豊洋画家協会展

■3月31日(火)～4月5日(日)
■田川市美術館 ギャラリーB

阿部直昭、是澤清一、柳田順子、石橋智恵、小川かおり 他、筑豊の洋画家達のご高覧下さい。
(小川 かおり)



自由課題 たなけん展

■5月12日(火)～5月17日(日)
■福岡市美術館

九州産業大学短期大学部名誉教授・田邊幹夫先生と、先生を恩師と仰ぐ教え子有志による展示会を開催いたします。今回が10回目となります。
(小林 広美)



「CAT」小林 広美

第79回 示現会福岡展

■5月19日(火)～5月24日(日)
■福岡市美術館

日展系絵画団体。4月に東京国立新美術館をスタートし、全国 14 か所にて巡回。巡回作品と地元福岡、久留米等の作品を展示致します。
(瀧井 利子)



「ある日の午後」川内 桂子

<生命体シリーズ> 滝口文吾作品展

■6月16日(火)～6月21日(日)
■福岡市美術館

200 号を中心に10 数点大作を展示します。生キャンバスと油彩の表現です。花を中心にしたモチーフで続けている生命体シリーズ展覧会です。
(滝口 文吾)



「日常・否・非日常(予測可・否・不可)」

「ギャラリー・カフェゆずりは」閉店に寄せて

1998 年福岡県美術協会事務局局長であった洋画部の池田正臣先生が、2004 年に急逝された後、ご夫人の典子様が、遺作を展示するカフェとして、今日までの長きにわたり、個展、グループ展、コンサート他様々な文化の種まきをされて来た「ギャラリー・カフェゆずりは」(糟屋郡篠栗町)が、2025 年いっばいに閉店されます。また、更なる活動を検討されておられます。一抹の寂しさを覚えますと共に心より敬意を表します。

(特任事務局員 小林敏夫)

▶唐津市近代図書館美術ホール tel 0955-72-3467
▶福岡市美術館tel 092-714-6051
▶ギャラリー風tel 092-711-1510
▶九州国立博物館tel 050-5542-8600

▶九州産業大学美術館 tel 092-673-5160
▶ギャラリー Create 洛tel 075-708-7898
▶田川市美術館tel 0947-42-6161
▶福岡県庁tel 092-651-1111

【広報担当理事】●(デザイン) 佐土嶋文香 【広報委員会】●委員長:(彫刻) 津田三朗 ●委員:(日本画) 峰松由布子/(洋画) 大塚美和子/(工芸) 津留崎順子
(書) 古木青翰/(写真) 高良慶治・植松佳春/(デザイン) 市丸美波子